



平成29年4月19日、
唐津小唄が完全復刻しました。
北原白秋の想う唐津…その全てがここに、
初の全42章を収録したCDが完成しました。

「唐津小唄」は、「北九州鉄道（現在のJR筑肥線）」の沿線観光ソングです。制作は、多くの創作民謡を手がけた人気コンビ、詩人・北原白秋と新進作曲家・町田嘉章に依頼しました。全42章からなり唐津の地名や故事が随所に使われています。1930年5月に発表され、花柳寿徳の振付でかつては盆踊り等、広く市民に親しまれてきました。

※詳細は、女将の御挨拶バックナンバー（#30・平成14年9月）をご覧ください。<http://www.yoyokaku.com/sub7-30.htm>

そんな「唐津小唄」も時代が昭和から平成へと流れ、時間の経過と共に忘れ去られ、今では主に50代後半からの人が知るのみとなっています。「このままでは、貴重な文化遺産が無くなってしまう！なんとかこの唄を、次世代に継承せねば」事態を憂うおじさん3人が、鮎処つく田に集まった事がきっかけとなり機運が一気に高まりました。2016年晩夏、加藤眼科の加藤博彦先生と唐津出身の演歌歌手六本木ヒロシ氏、つく田の大将・松尾雄二氏が中心となり「唐津小唄を保存する会」が結成されました。同曲を新たに、レコーディング、CD化するため、松尾氏と親交のあった唐津、唐津焼をこよなく愛する村多正俊氏（ポニーキャニオン・プロデューサー）に制作を依頼。歌唱を担当する六本木ヒロシ氏は、歌詞の理解を深めるため洋々閣の女将さんに師事し、レコーディングに挑みました。日本を代表する三味線奏者、本條秀太郎（ほんじょうひでたろう）氏に演奏と編曲を依頼し、制作ディレクターには五木ひろしをはじめ様々なヒット曲を生み出してきた、ひのきしんじ氏という豪華布陣が脇を固めました。



CDケース付属の唄われている場所をマッピングした「唐津小唄MAP」。



演奏と編曲を担当した、日本を代表する三味線奏者、本條秀太郎氏(左)。唐津出身の演歌歌手六本木ヒロシ氏(右)。



五木ひろしをはじめ様々なヒット曲を生み出してきた、制作ディレクターひのきしんじ氏(右)と六本木ヒロシ氏(左)。



唐津小唄/¥1,500（税別）

●お問い合わせ：唐津小唄を保存する会事務局
(NPO法人Network Stationまつる内・担当：小松)
Tel：0955 - 70 - 0303（平日9：00～17：00）

こうして、1930年に発表された5章のみを選択したアナログ・レコードと異なる、全42章を完全収録したCDが完成しました。収録曲は、全章（1章～42章）、唐津の地域をバランス良く網羅した短章（1章、8章、13章、32章、34章、38章）、短章カラオケの3曲です。さらに、全42章が1章毎に自由に選択できるように録音されており、例えばこんな聴き方もできます。「呼子の盆踊りで唐津小唄を踊る」場合、CDケース付属の唄われている場所をマッピングした「唐津小唄MAP」を参考に呼子に関連する章だけを選び編集すると「呼子版・唐津小唄」が完成します。唐津各地の人と人を融和する可能性を秘めた唐津小唄、「小学校や中学校等に寄贈し、僕らがそうであったように、この歌に親しみ、唐津という街に住んでいる、ということ誇るようになってほしい」とメンバーは語っています。